



全校進路研修会

7月28日に行った全校進路研修会では、卒業後の職場定着に向けた在学中の支援・指導方法について知り、進路指導に生かすことを目的に、秋田大学の前原先生をお迎えしてお話を伺いました。本校職員に加え、県内小・中学校の難聴学級担当の先生方にもご参加いただきました。講演内容について、抜粋してご紹介します。

演題 卒業後の職場定着に向けた支援・指導方法

講師 秋田大学 こども発達・特別支援講座
准教授 前原和明先生



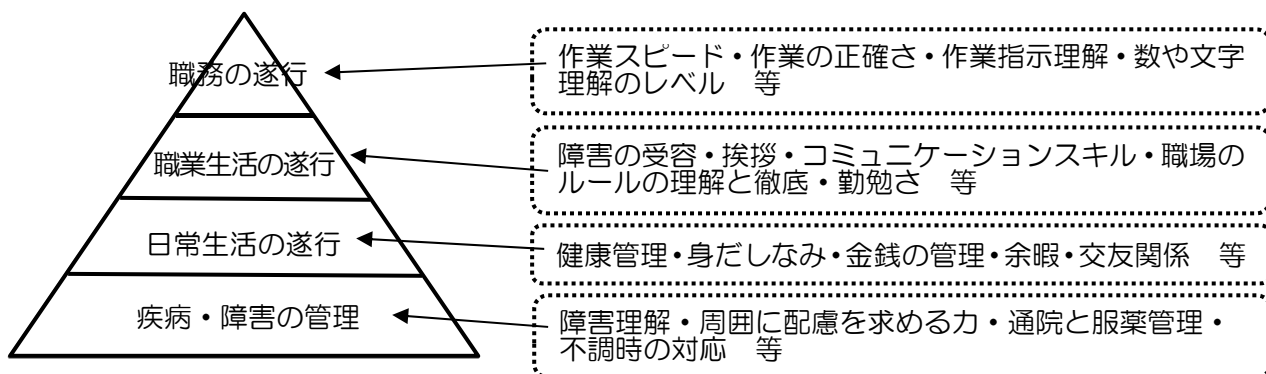
講演内容

【聴覚障害者の雇用実態】(障害者職業総合センター(2020)障害のある求職者の実態等に関する調査研究より)

- 離職を経験した聴覚障害者に「離職を防ぐことができたと考えられる職場での配慮」について調査したところ、「職場でのコミュニケーションを容易にする手段や支援者の配置」「能力が発揮できる仕事への配慮」と答えた人が最も多かった。
- 企業側は、聴覚障害者を雇用することについて「聞こえないだけなら、雇用管理が楽なのではないか」「自分の祖父も耳が聞こえにくいけど、普通に会話ができるので大丈夫だろう」等の誤ったイメージをもっていることがある。

【職業準備性】

- 企業側ではなく個人の側に、職業生活を始める(再開も含む)ために必要な条件のことを職業準備性と言う。仕事のスキル面(パソコン操作等)ではなく、働き続けるために必要な準備が整っているかを図る指標である。
- 下の図のようにピラミッド型になっている。上の項目が身に付いていても、下の項目が身に付いていないと根元がぐらついてしまい、職業生活を継続することが困難になる。



⇒ ○聴覚障害者の就労に関しては、十分な理解や配慮が得られているとは言い難い状況。個人と会社とのギャップを埋めるために、多様な観点から課題を捉えて支援していく必要がある。

○「職業準備性が全部備わっていないと働けない」のではなく、「できていない面はどのような支援があればいいのか」という捉え方が大切である。また、できることを少しずつ増やしていくための目安として活用し、小さいうちから段階を踏んで身に付けていく必要がある。

